

家庭科教育における被服整理分野の教育内容に関する一考察

- 高校家庭科担当教師の実態・意識調査から -

広島大教育 ○川辺淳子 岩垂芳男

【目的】家庭科における被服整理に関する教育内容には、被服の購入から、洗濯、ドライクリーニング、漂白、増白、しみ抜き、仕上げ、加工、保管、更生、さらに、使用後の廃棄に至るまでの全過程が包括されている。衣生活の形態が、従来の「つくる」衣生活から、「管理する」衣生活へと変化してきている現状からも、被服整理分野の教育内容は益々必要性を増してくるものと思われる。そこで、高校家庭科担当教師の被服整理分野の指導の実態・意識調査から、被服整理教育の現状と問題点を探り、今後の在り方を検討した。

【方法】高校家庭科担当教師の被服整理分野の指導に関する実態・意識調査を行った。調査対象は中国・四国・九州地区の普通科を有する県立高等学校 598 校（但し男子校は除く）、回答数 234 校（回収率 39%）。調査方法は郵送による質問紙法による。調査期日は 1991 年 11 月から 12 月。主な調査項目は、「衣生活領域全体における被服整理分野の位置づけ」、「実験・実習教材」、「環境教育との関連性」等である。

【結果】衣生活領域に対する配当時間は、平均 37.2 時間であり、そのうち 5 時間が「家族の被服整理」に充てられていた。特に重点を置いて指導している項目としては、「品質表示や取り扱い絵表示」、「石けんと合成洗剤の違い」等であった。全体の約 57% が実験授業を実施しており、最も多く取り上げられたテーマは「洗剤の働き」であった。その長所としては、視覚的にも訴え、体験的であるため、理解が深まるとしたものが多く、一方短所としては、実験の必要性を感じながら、準備や片付けが大変で時間もかかるといった、教師自身及び外的要因によるものが多かった。約 81% の教師が環境教育に意欲的であった。